

## 34 言語聴覚士養成課程でのリスクマネジメント教育における 臨床実習中のインシデント・アクシデント事例活用の意義

学院 言語聴覚学科

坂田善政、北 義子、小野久里子、下嶋哲也

【はじめに】近年、医療現場におけるリスクマネジメントの重要性が認識され、多くの病院等で医療事故防止のためのアプローチが試みられている。当学科は言語聴覚士(ST)を養成しているが、現在 ST の約 7 割は医療現場に勤務しており、その養成においてもリスクマネジメント教育が重要であることは論を待たない。

当学科でもこれまで学生に対して、ST として必要とされる専門的知識に加えて、標準予防策(スタンダードプレコーション)や守秘義務といった、リスクマネジメントに関する知識の教育も行ってきた。これらのリスクマネジメントに関する教育においては、日本言語聴覚士協会による「言語聴覚士のリスクに関するアンケート」の結果(日本言語聴覚士協会, 2004)を参考としているが、学生が臨床実習において経験するリスクには、現職の ST が経験するリスクとは異なる内容が含まれる可能性が考えられた。

そのため、当学科では平成 23 年度から学生に対して、インシデント・アクシデントに関する教育を行うとともに、臨床実習において経験されたインシデント・アクシデント事例を収集し、学生に周知する形でリスクマネジメント教育に活用してきた。本報告では、これら収集されたインシデント・アクシデント事例についてその特徴を明らかにし、今後のリスクマネジメント教育への示唆を得ることを目的とする。

【方 法】平成 23~26 年度の 4 年間に、学生が臨床実習において経験したインシデント・アクシデント事例を収集し、それらと「言語聴覚士のリスクに関するアンケート」の結果とを比較検討する。

【結 果】収集された事例は、ヒヤリハットが 9 件とアクシデントが 1 件の計 10 件であった。これらのうち、8 件が身体危害に関するものであり、1 件が器物破損に関するもの、1 件がその他に属するものであった。また、10 件のうち 5 件は、現職の ST でも学生と同様に経験する可能性のある事例であったが、残る 5 件のうち 3 件は学生が患者の状態を十分に把握していなかったことから問題が生じた事例であり、残りの 2 件は実習指導者への事前確認の不足によるものと、学生の立場では許されない越権行為と考えられるものであった。

【考 察】今回、学生の臨床実習において収集されたインシデント・アクシデント事例の多くは、現職の ST でも学生と同様に経験する可能性のあるものであったが、一部は学生に特有に生じやすいインシデントであると考えられた。このことから学生のリスクマネジメント教育において、現職 ST が経験したインシデント・アクシデント事例について教育することに加えて、学生の臨床実習におけるインシデント・アクシデント事例を収集・分析・活用することは、一定の意義があると考えられた。